研究員の眼

バランス型ファンドは市民権を得た？
～2020 年5月の投信動向～

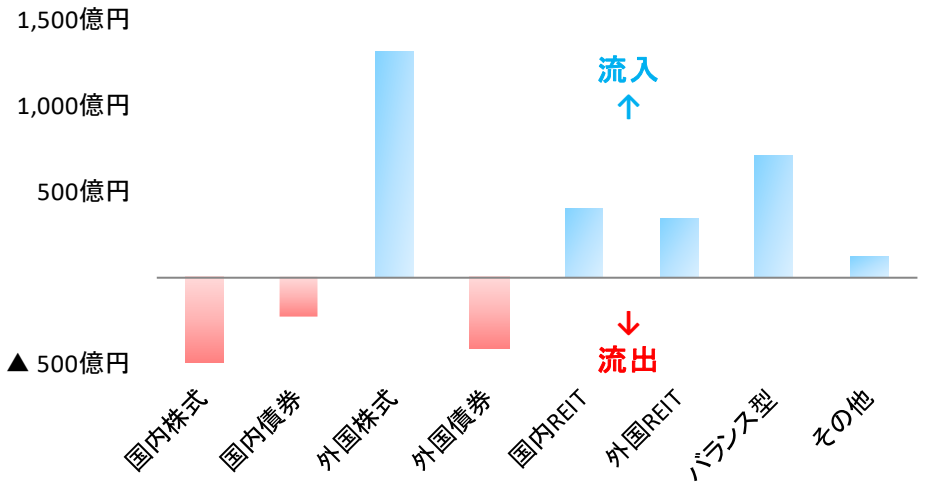
金融研究部 准主任研究員　前山　裕亮
(03)3512-1785　ymaeyama@nli-research.co.jp

バランス型が資金流入に転じる

2020 年５月の日本籍追加型株式投信（ETFを除く。以降、ファンドと表記）の推計資金流出入をみると、外国株式、国内REIT、外国REITは先月から引き続き資金流入であり、バランス型も資金流入に転じた【図表１】。国内株式、外国債券、国内債券は引き続き資金流出であったものの、５月も４月同様に、流出金額はどれも 500 億円未満で小幅であった。

ファンド全体でみると、1,700 億円の資金流入があり４月の 1,400 億円から 300 億円ほど増加した。外国株式、国内REIT、外国REITへの資金流入は４月から鈍化し、国内株式と外国債券からの資金流出はやや拡大した一方、４月に 500 億円ほど資金流出していたバランス型が５月は 700 億円の資金流入に転じたことがファンド全体の流入増加に寄与した。

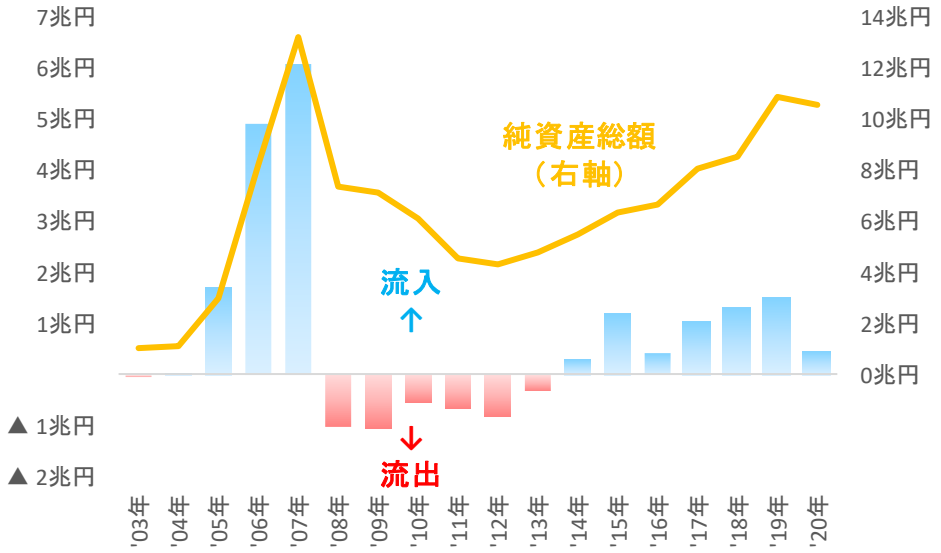
【図表1】2020 年5月の日本籍追加型株式投信（除くETF）の推計資金流出入



（資料）Morningstar Direct より作成。各資産クラスはイボットソン分類を用いてファンドを分類。

 | Copyright ©2020 NLI Research Institute All rights reserved

【図表2】バランス型の資金流出入と純資産総額の推移



（資料）Morningstar Direct より作成。2020 年は5月まで。

バランス型は、とりあえず３月からの基準価格急落に伴う売却は一巡したものとみられる。個別にみても、バランス型の中で資金流出が最大であったファンドでも流出金額が 16 億円と少額であった。10 億円以上の資金流出があったバランス型の本数も、４月の８本から５月は４本と半減している。

その一方で 10 億円以上の資金流入があったバランス型の本数は、４月の 11 本から５月は 21 本へと倍増した。以前のように月に 100 億円以上の資金流入があるような人気ファンドが再び現れたわけではないが、それでも５月は最も資金流入があったファンドで 60 億円と４月の 29 億円とくらべて増加した。資金流出のファンドが減る一方で、様々なファンドに資金流入があり、バランス型全体で流入金額が 700 億円に達した模様である。投資環境の急変後、早々にバランス型に投資家が戻ってき始めていることを踏まえると、投資家の間でバランス型自体が定着してきているのかもしれない。

ただ、現時点で本当にバランス型が定着したと判断するには早計だと思われ、来月以降も資金流入が続くのか注視する必要があると考えている。それは売却を検討しているものの急落直後には様子見していた投資家が、基準価格が戻るにつれて売却に動く可能性があるためである。リーマン・ショック時には、そのような投資家の売却もあってショック時の 2008 年や 2009 年だけでなく、結果的に 2013 年まで長期にわたりバランス型からの資金流出が続いた【図表２】。

一部の外株アクティブ・ファンドの人気も継続

５月の外国株式は 1,300 億円の資金流入があり、４月の 1,900 億円の資金流入と比べると鈍化したが、引き続き 1,000 億円を超える資金流入があった。外国株式の中では、インデックス・ファンドに４月と同程度の 900 億円の資金流入があり、５月も４月と同様に対面販売が厳しい状況の中、非対面販売が主体のインデックス・ファンドの販売が堅調だったといえよう。その一方で、アクティブ・ファンドで５月は 400 億円の資金流入と４月の 1,100 億円の資金流入とくらべて大きく減少し、インデックス・ファンドの半分以下の流入となった。

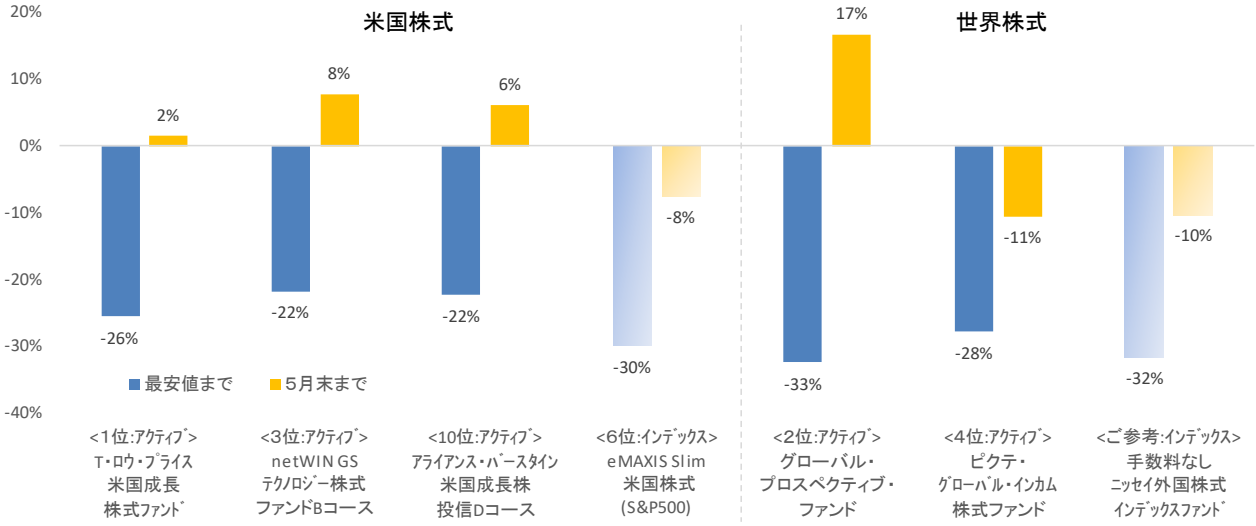
 Copyright ©2020 NLI Research Institute All rights reserved

【図表3】2020 年5月の推計純流入ランキング

	ファンド名	運用会社	5月の推計純流入	参考：4月の純流入	純資産 5月末時点
1位	ティー・ロウ・プライス 米国成長株式ファンド	ティー・ロウ・プライス・ジャパン	207 億円	148 億円	3,156 億円
2位	グローバル・プロスペクティブ・ファンド	日興アセットマネジメント	203 億円	91 億円	3,922 億円
3位	netWIN GSテクノロジー株式ファンド Bコース(為替ヘッジなし)	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント	155 億円	106 億円	4,358 億円
4位	ピクテ・グローバル・インカム株式ファンド(毎月分配型)	ピクテ投信投資顧問	119 億円	115 億円	9,684 億円
5位	ダイワJ-REITオープン(毎月分配型)	大和アセットマネジメント	111 億円	95 億円	2,893 億円
6位	eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)	三菱UFJ国際投信	97 億円	110 億円	1,019 億円
7位	マンAHLスマート・レバレッジ戦略ファンド	大和アセットマネジメント	94 億円	35 億円	1,243 億円
8位	J-REIT・リサーチ・オープン(毎月決算型)	三井住友トラスト・アセットマネジメント	87 億円	90 億円	3,147 億円
9位	ダイワ・US-REIT・オープン(毎月決算型) Bコース(為替ヘッジなし)	大和アセットマネジメント	78 億円	67 億円	4,957 億円
10位	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信D毎月(ヘッジなし)予想分配金提示	アライアンス・バーンスタイン	74 億円	34 億円	4,572 億円

（資料）Morningstar Direct より作成。ETF、SMA 専用、DC 専用ファンドは除く。

【図表4】人気外国株式ファンドの年初来のパフォーマンス



（資料）Morningstar Direct より作成。世界株式型のインデックス・ファンドの中で5月に最も資金流入が大きかった「<購入・換金手数料なし>ニッセイ外国株式インデックスファンド」のパフォーマンスも参考のため表示

外国株式のアクティブ・ファンドは対面販売の自粛に加えて、世界的に株価がやや急速に上昇したため、利益（損失）確定の売却が出やすかったことも影響したと思われる。実際にハイテク系やバイオ・ヘルス系のテーマ株ファンドなど一部のアクティブ・ファンドでは、４月には見られなかったような大規模な資金流出があった。

ただ、外国株式のアクティブ・ファンド全体でみると５月に資金流入が鈍化していたが、一部の人気アクティブ・ファンド（【図表３】太字の５本、赤字：米国型、緑字：世界型）は、４月以上に５月に資金流入があった。５月も４月と同様に対面販売が厳しい状況であったが、それでも人気を保持していたことが分かる。

この人気の外国株式アクティブ・ファンド５本の年初からのパフォーマンスをみると、「ピクテ・グローバル・インカム株式ファンド」以外の４本は５月末時点（黄棒）で収益がプラス圏まで回復している【図表４】。つまり、購入したほとんどの投資家が既に含み損を抱えていない状況であることが分かる。また、最も下落していた時の下落幅（青棒）をみても同型のインデックス・ファンドと同程度か、もしくは小さかった。これらのファンドがインデックス・ファンドよりも堅調なパフォーマンスを今後も維持できるかは分かりかねるが、これまでの堅調なパフォーマンスから投資家の信認を得やすくなっている面があるのかもしれない。

 Copyright ©2020 NLI Research Institute All rights reserved

原油関連ファンドが好調

５月にパフォーマンスが良好であったファンドをみると、原油を中心に資源価格が上昇したため、資源関連ファンド（赤太字）が好調で、特に原油のみの「UBS 原油先物ファンド」が最も高パフォーマンスであった【図表５】。「UBS 原油先物ファンド」は４月に 100 億円以上の資金流入があり、原油価格の反発を狙った投資家の動きがみられたが、早くも５月にそのような投資家が期待したとおりの展開となった。

また、国内株式の中では特に中小型株の上昇が大きかったこともあり、銘柄選別がうまくいった中小型株アクティブ・ファンド（青太字）も高パフォーマンスであった。その他、メキシコ・ペソ、ブラジル・レアル、南アフリカ・ランドといった高金利の新興国通貨も（対円で）大きく上昇したため、通貨選択型ファンド（緑太字）も好調なファンドが多かった。

【図表5】2020 年5月の高パフォーマンス・ランキング

	ファンド名	運用会社	5月の収益率	過去1年収益率	純資産5月末時点
1位	UBS原油先物ファンド	UBSアセット・マネジメント	32.2 %	−39.6 %	225 億円
2位	DIAM新興市場日本株ファンド	アセットマネジメントOne	25.2 %	24.3 %	128 億円
3位	厳選ジャパン	アセットマネジメントOne	24.2 %	9.5 %	22 億円
4位	野村通貨選択日本株投信(メキシコペソコース)毎月分配型	野村アセットマネジメント	23.0 %	−6.8 %	18 億円
5位	野村通貨選択日本株投信(メキシコペソコース)年2回決算型	野村アセットマネジメント	22.9 %	−6.9 %	11 億円
6位	企業価値成長小型株ファンド	アセットマネジメントOne	19.9 %	20.1 %	199 億円
7位	DIAMコモディティパッシブ・ファンド	アセットマネジメントOne	19.1 %	−39.6 %	35 億円
8位	野村日本ブランド株投資(ブラジルレアルコース)年2回決算型	野村アセットマネジメント	18.6 %	−14.4 %	30 億円
9位	野村日本ブランド株投資(ブラジルレアルコース)毎月分配型	野村アセットマネジメント	18.5 %	−14.3 %	314 億円
10位	日本新興成長企業株ファンド	野村アセットマネジメント	18.3 %	4.5 %	72 億円

（資料）Morningstar Direct より作成。2020 年5月末残高が 10 億円以上の ETF、ブル・ベア型以外のファンドでランキング。

（ご注意）当資料のデータは信頼ある情報源から入手、加工したものですが、その正確性と完全性を保証するものではありません。当資料の内容について、将来見解を変更することもあります。当資料は情報提供が目的であり、投資信託の勧誘するものではありません。